

本学における 教学IR

IR室

2023年6月9日

■ 本学における教学IR組織の概要

本学においてはIR室にて、教学IRに関する活動を実施している。

IR室は、本学内外の様々な情報の収集及び分析等を行い、本学の戦略的な大学運営の意思決定、推進及び改善を支援するための組織で、以下の(1)～(5)の業務を行っている。

- (1) 大学運営の意思決定、推進及び改善に係る情報の収集及び分析に関すること。
- (2) 教育及び学習支援における情報の分析に関すること。
- (3) 本学の活動の点検・評価等に係る情報の収集及び提供に関すること。
- (4) 大学内組織の活動における情報分析の支援に関すること。
- (5) その他、経営会議からの諮問事項に関すること。

教学IRにおいては、主に業務(2)が主体となる。

また、単科大学である特徴も活かし、各種委員会や事務(教務委員会、学生支援委員会、学部入学試験委員会など)といった学内組織とも共同し、データの収集・提供・分析・結果の検討を行うことで、教学改善へとつなげてもいる。

■ 教学IRに関する活動内容例(予定・継続も含む)

(1)学修成果・教育成果の把握・可視化

＜教務委員会, ICT推進会議＞

- ・科目間の成績評価基準の平準化
- ・デジタル教科書導入による学修・教育成果の把握・評価

など

(2)入学選抜における情報[受験形態, 成績など]と入学後の情報[成績など]の関連性の検証

＜学部入学試験委員会, 教務委員会＞

- ・入学選抜における成績と入学後の成績, 入学選抜別による入学後の成績の推移など多角的に検討

など

■ 成果の一事例[継続中]

● 科目間の成績評価基準の平準化(教務委員会との共同実施)

本学では成績評価の平準化および評価の改善のために、2021年度後期より、教員に科目の自己評価を行ってもらう際に、指標の1つとして「想定点(学生がとることが望ましい点数)」を設定した。

2021年度の後期科目におけるデータを用いて分析を行った結果、基礎科目と看護専門科目とで想定点の傾向に違いがみられ、看護専門科目の方が高めであった。看護職を育成する大学であるため、教員においては看護専門科目の理解度を重要視していることが伺える。しかし、半期における結果であるため、2022年度前期のデータも踏まえて検討を行っていく。

想定点	基礎	看護
70～74点	5	2
75～79点	2	8
80～84点	3	23
85～89点	2	0

(数値は科目数)

成績評価基準に関する今後の検討内容

- ・基礎科目と看護専門科目を共通の評価基準を設けるか。
- ・講義・演習・実習・グループワーク・レポートなど科目により評価方法も異なる。共通となる評価の視点もあれば、評価者の裁量による考え方による評価の視点もあるため、評価基準にある程度の幅をもたせた考え方はできないか。
- ・想定点の設定にあたっては現時点では共通基準を定めていないため、データの分析結果を通して、学内で共通認識となる基準の検討を行っていく。
- ・過去2年分のデータが蓄積されつつあるので、経年的な傾向からの検討も行っていく。